

トピックス

江別高校生活デザイン科の授業・行事あれこれ

北海道江別高等学校
生活デザイン科
No.12
令和8年10月6日

認知症への理解を
広げるために協力

地域へ届ける！子ロバマスコットを制作

生活デザイン科服飾コース2年生11名が、野幌第一地域包括支援センターからの依頼を受け、認知症サポーターのシンボルである「子ロバマスコット」を製作しました。

生徒たちは、認知症サポーター養成講座を受講し、認知症について学んだ後、服飾手芸の授業でマスコットの製作に取り組みました。オレンジと黄色のフェルトを使い、一つ一つ丁寧に縫い上げ、色とりどりのひもを付けて仕上げました。

完成したマスコットは100個。9月16日、野幌第一地域包括



支援センターへ贈呈しました。生徒たちは完成したマスコットを手渡ししながら、地域の方々に自分たちの学びを届ける喜びを感じることができました。

今回の活動は、服飾の技術を身に付けるだけでなく、学んだ技術を地域のために生かすことの大切さを考える機会となりました。これからも生活デザイン科では、地域とのつながりを大切にしながら、学びを実践につなげていきます。

きもの授業を実施しました～ゆかた着装実習～

9月25日、生活デザイン科2年服飾コース11名を対象に、きもの授業の一環として「ゆかた着装実習」を行いました。今年度も、NPO 法人日本時代衣裳文化保存会より講師をお招きし、ゆかたの着装や帯の結び方などを教えていただきました。

生徒たちは、実際にゆかたを身にまとい、普段着る機会の少ない和服の構造や着装の仕方を体験しました。実際に「着る」ことで、衿や身頃、袖など、ゆかたを構成する部分にも目を向けることができました。

服飾コースでは、3年生になると「被服製作技術検定 和服1級」に挑戦します。検定の課題はゆかたの製作です。今回の実習は、ゆかたを実際に着ることでその構造を知り、これから自分たちが製作するゆかたへの関心を高める貴重な機会となりました。

「着る」体験から「つくる」学びへ。今回の実習をきっかけに、ゆかたや日本の服飾文化への興味を深め、3年生でのゆかた製作につなげてほしいと思います。

